

「強度行動障害の発生機序と援助のあり方について」

(平成10年度厚生省心身障害研究)

研究協力者 めぶき園 五十嵐 康郎

1 はじめに 当園は平成3年に開設した定員30名の知的障害者更生施設(入所)で、平成10年4月1日現在、20歳から29歳までの30名の自閉症や知的障害の青年が在籍し、そのうちの25名が自閉症あるいは自閉的傾向のある知的障害者である。

25名には様々な行動障害が見られ、その改善に取り組んできたが、字数の制限もあるので、今回は自傷を取り上げることにした。出血したり、失明したり、頭部が変形するなどのひどい自傷が見られたのは、Aさん、Bさん、Cさん、Dさんの4名であり、その場面や状況から自傷の原因や要因を整理・分析して、強度行動障害にいたるメカニズムを検証し、援助のあり方を考察する。

2 自傷にいたる要因の分析 1 自傷の発生する状況

< Aさんの場合 > 26歳 男性 IQ 21 療育手帳 A2

(顎や頬を平手や拳で叩く、殴る。手の甲に咬みつく。)

「お母さん迎えにくる」などと帰宅予定の変更や帰宅日を気にして

見知らぬ人が大勢いる場面で突然に

歯科への通院など、本人にとって嫌なこと、気になることの前に

過去の出来事を想起するように「何しよんのか やめんか」などと叫びながら

職員の前で「パニックする」と予告したり、「ピンポンパン」と言いながら

周囲が騒々しかったり、他者の怒りなどの感情に誘発されて

原因不明、イライラし、いてもたってもいられない様子で

< Bさんの場合 > 25歳 男性 IQ 21 療育手帳 A2

(頭を拳で殴る。)

食事前の空腹時や暑さ、疲れ、痛みなどで不快なとき

出てきた食事のメニューが気に入らないとき

食事や帰宅時に待たされたとき

嫌なことやしたくないことを指示されたり、現にしているとき

周囲が騒々しかったり、他者の怒りなどの感情に誘発されて

原因不明、怒りながら

< Cさんの場合 > 24歳 男性 IQ 測定不能 療育手帳 A1

(頬を平手や手の甲で叩く)

座り続けることや待つこと、何かをするように促されたことに対して、奇声をげて怒りながら

原因不明、イライラした様子で奇声をあげて怒りながら

原因不明、特に機嫌が悪いというわけでもなく

< Dさんの場合 > 22歳 男性 IQ 40 療育手帳 A2

(顎やお腹などを拳で殴る。床や壁、柱に頭を打ち付ける)

他利用者から本人が気にしていることを言われたに、れたとき
原因不明、掃除や作業中に突然

上記のことから自傷の原因を整理すると下記の通りである。

2 自傷の原因

突然の予定変更

空腹や暑さ、痛み等の生理的、身体的な原因。

嫌なことをさせられる。思うようにならない。待てない。イライラする。

本人に対して否定的あるいは高圧的な他者の言葉かけや感情、場の雰囲気等。

本人にとってネガティブな過去の体験や事象を想起

自己刺激行動やこだわり行動。

原因不明

自傷の発生する状況や原因から要因を分析すると下記の通りである。

変化に対する不安や抵抗がある。

感覚が過敏だったり、痛みや生理的な不快を人に伝えたり処理できない。

嫌なことや不安に対する気持ちを人に伝えたり処理できない。

人の存在や感情に対して過敏で、対人関係をうまく持てない。

過去のネガティブな体験や事象から抜け出せない。

発達段階が低く、興味の範囲が狭いために自己刺激行動やこだわり行動に耽溺している。

内奥から沸き上がる不安や焦燥感に駆り立てられる。

自傷の発生する状況から原因を整理し、要因を分析してみると、その多くに自閉性障害や発達障害などに関連する生物学的な要因が関係していると思われる。しかしながら発生の状況をさらに詳しく検証してみると、環境や対人関係のありようが深く関わっていることがわかった。

Aさんの場合、対応する母親や職員の痛ましいと思う気持ちや、もう沢山だやめてほしいという気持ち、何故やめないのか腹立たしい気持ちなどや、そうした気持ちから醸し出される表情や声のトーンが自傷を強化した。叱ったり怒ることもお互いの感情が増幅されて逆効果だが、かといって無視すると無視できなくなるまで自傷を繰り返した。

さらに職員の前に来て、「自傷する」と予告したり、「ピンポンパン」と言いながら自傷するというようにパターン化し、職員との関係性の一部として固定化された時期もあった。

Bさんの場合は、不快な状況は予防し、嫌がることはさせないように、本人の欲求には先回りして満たし続けてきた結果、さいなことや、ほんの数分待つことにも耐えられず、怒りながら自傷するようになった。原因や理由は察しがつくことが多いが、全く推測がつかないこともある。自傷を制止しようとする職員に掴み掛かったり、指をねじ上げたりす

るために職員も冷静さを保つことが難しく、叱ったり、怒ることが多くなってしまおうが、逆効果であることがわかった。

Dさんの場合は、自傷が激しいために精神病院に入院していたが、当園に入園後は抗精神薬を減量し続けたにもかかわらず、自傷の頻度や程度が大幅に改善された。従ってこれといってすることがない無為な生活や対人関係が原因で自傷が強化されたものと推測される。

以上のことから、自傷を強化したと思われる要因を整理すると下記の通りである。

4 自傷を強化した要因

無為な生活や放任の結果、自傷が強化された。

否定的な感情にさらされ続けた結果、自傷が強化された。

一方的、高圧的、時として暴力的な指導や訓練の結果、自傷が強化された。

腫れ物にさわるように、無理難題や不当な要求を受け入れ続けた結果、自傷が強化された。

3 自傷に対する援助のあり方について

Aさんの帰宅予定の変更については、あらかじめ予告したり、なだめて気持ちを支えてあげることで改善されつつある。予定変更を避けることも一つの対処方法だが、人が生活していく上で予定変更は避けられないので、長期的には予定変更があっても自傷をしないですむように援助するのがベストと思われる。

Bさんは、空腹や暑さなどの生理的な理由による自傷が見られ、生理的な原因を取りのぞくことも有効だが、「お腹が空いたんだね、もうすぐお昼だから頑張ろうね」とBさんの気持ちを受けとめて代弁し、励まして支えるという関わり方が有効だった。

Bさんは、他に腰痛が原因と思われる自傷が見られ、指圧マッサージや腰に負担のかからない作業に変更することで、自傷が軽減された。

Aさん、Bさん、Cさんに共通して、援助者の否定的、高圧的な言葉かけや態度が原因で、自傷が強化される場面が多く見られた。

Cさんの場合は、イライラしているときは強い顔叩きが見られるが、特に原因がなく、機嫌が良いときにも叩き続ける行動が見られる。Aさん、Bさん、Dさんも原因不明で突然自傷が始まるケースが見られる。直接の原因が不明であるだけに対処はより困難であるが、作業や余暇などの本人が打ち込める活動を提供することや、自傷場面では、おだやかな気持ちで関わりながら、対象者の心理を読み取りながら声かけしたり、力づくではなく、対象者の力に合わせて調整しながらながら制止することが有効だった。

Dさんは他利用者の声かけやちょっかい（Dさんが自傷することを期待して）から自傷が始まるが、「イヤだったら言葉で言おうね」とか、相手に対して、「Dさんがイヤがつているから言わないでね」と介入し、適切な態度をとるように言い聞かせた結果、相手に対して「やめてください」と言えるようになり、軽く、短時間で終わるようになった。

全ての事例に共通して援助者との親和的、肯定的で良好な関係が形成されることによっ

て自傷が改善あるいは軽減された。

以上のことから、自傷に対する援助のあり方を整理すると下記の通りである。

作業や余暇などの打ち込める活動を提供する。

気持ちや原因を推量し、受容的、肯定的な態度で接する。

痛みなどの身体的な原因を取り除く。

予定の変更は、事前に予告し、なだめて気持ちを支える。

空腹や暑さなどの生理的な不快に対しては、気持ちを受けとめて励ます。

気持ちを代弁し、適切な方法や手段を粘り強く教える。

無理難題や不当な要求は受け入れない。

対象者の感情に巻き込まれないで、おだやかに暖かい気持ちで接する。

自傷を制止する場合は、対象者に合わせて力加減を調整しながら行なう。

4 まとめ 今回は、自傷が発生する要因の分析を通して、自傷に対する援助のあり方を考察したが、

強度行動障害にいたる経過を見ると、障害が重いからと何もさせなかったり、腫れ物にさわるように扱ったり、自閉症者には意志や人格が無いかのように、本人を抜きにして物事を決めたり、高圧的、暴力的に接したりと、親や教師、施設の職員などの援助者が自閉症者に対して、人としてまともに接してこなかった結果が行動障害を強化しているようにすら思えるのである。したがって、本論で整理した強度行動障害への援助のあり方を端的に言えば、人として、敬意をもって誠実に接することにつきると私は考えている。

刺激の制限や構造化は初期段階としてはある程度有効だが、すでに強度行動障害の状態に陥っている場合には、さほど有効とは思えないし、長期的に見ると、かえってこだわりを固定化したり、状況の変化に対応できなくなるなどの問題が生じるおそれがある。当園では、ブースを設けて刺激を制限したり、絵カードを用いるなどの構造化の手法を取り入れてはいないが、本論で提起した方針にそって援助することで、援助者との親和的、肯定的な関係を抛り所にしながら、利用者自身が対応力を身につけて、日常生活に支障がない程度に改善されつつあることが実証されている。